

# 赤水資料、国重文に指定

## 寄稿

佐川 春久

2017年に、日本地区の先駆者長久保赤水(1717~1801年)の生誕300年記念の年を迎えた。その年の1月から長久保赤水顕彰会では、東京大学大学院情報学環の馬場章教授のご指導の下にホームページ(HP)を開設し、赤水先生の業績を英文に訳し、世界中に情報発信を始めた。ちょうど当時、馬場教授の研究室にいた施井泰

# HP開設業績世界へ

史民俗資料館に韓国テレビのクルーが取材に来た。「赤水図」に書かれている竹島の取材であった。このことを、島根大学の船杉力修准教授にお知らせすると、外務省と内閣官房に連絡するようにと、ご指導を頂いた。その年5月の赤水会の総

会に早速、内閣官房の方がお見えになり、長久保赤水資料群を確認していかれた。その結果、7月2日から8月4日までの期間、日比谷公園の市政会館地下1階の内閣官房領土・主権展示館で、「いったい何者? 江戸の地図男! 長久保赤水

展」を、長久保赤水顕彰会と内閣官房の共催で開催することになった。前年、つくば市の国土地理院で開催された展示会のレプリカをお借りして、内閣官房の皆さま方のご尽力により何とか準備が間に合った。初日に会場を訪れると、当時の福井照領土問題担当

大臣とともに、あいさつやテープカットなどをすることとなって、冷や汗と戸惑いを感じながらも何とか、無事に開会することができ胸をなで下ろした。その後、福井大臣に約40分間、展示資料の説明を行った。鋭い目のSPにいら

だ黙ってうなずいていたが、新聞社のインタビュアーでは「江戸時代から自分で情報を集めて一人で日本の領土を確定したということ、は、まさに、国として、もっともっと顕彰しないといけないと思います。この展示館だけでなく、もっと幅広く全国で近く見ていただくようなことを考えたい」というふうな思っています」と答えた。その後も私は、副大臣や政務官、審議官、参事官などの皆さま方にも、個別に説明する機会も頂いた。



# 県北

■日立支社  
日立市  
高萩市  
北茨城市  
☎0294(22)4466  
ファクス(22)4480

■常陸太田支局  
常陸太田市  
☎0294(72)0201  
ファクス(72)0440

19年4月から文化庁の国の重要文化財に指定に向けての調査が始まった。最初に、文化庁の調査官からは「現在、数人が所有している赤水資料を一括して、高萩市がまとめて指定を受けられるようにしてほしい」と言われた。「はい! 頑張ります」と答えたものの、全く、その時はその見通しもなかった。

文化庁の調査では、多くの先輩方が残してくれた資料や横山功さん(顕彰会副会長)が発行された3冊の書簡集が大きな役割を果たした。長久保赤水顕彰会では、高萩郷土史研究会の先生方のご協力を得ながら、すでに、現代語訳の本を発行していたため資料の内容が明確になっていた。

おかげさまで、今年の9月30日に、長久保赤水資料693点が正式に国の重要文化財に指定された。(長久保赤水顕彰会会長)(今回は9日付予定)